特43
997

茲に人皇六十代醍醐天皇の御時にあたり紀伊国日高郡にまさごの庄司と早
庄司と呼ぶ鍛冶ありけるがかく暮しける民
日高道成寺の観世音菩薩は法中出現の霊仏と崇め
仏を敬ふ事又人にまされ生涯を易くして妻子のあらん事を
なり家富み栄へ所縁をそこしけるが愛をそふる事なり夜明て
つ奈とて里の者とも其地の様をのぞき見とそ人挿を報ぜんと
しひめく
とりとく
童子を
ぞ像しけるを
あるを祭
とりこれを
尊むの
理に契り
ずつと続き
まさりあく
信仰ありけるかく
りあく家の者の
よし若斗まで

次へ

東京書籍館 TOKIO LIBRARY
明治二十年五月三十日内務省交付

[illegible]
くろうが藤原に[illegible]
さまよひ
従うるき
称するを助け我
家に伴ひ入り[illegible]
今暁ふたたび[illegible]
伴ひ[illegible]女を妻
となん[illegible]
童の[illegible]
[illegible]

まだ互に想ふ仲より
妻とよび夫と呼びて[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]今年より早秀の
田の[illegible]三四
年[illegible]
[illegible]
[illegible]
米の玉[illegible]
[illegible]又[illegible]
[illegible]連[illegible]
これを[illegible]國の[illegible]

下総 奥州の国のなる名玉つれ共
ろとそ並べきふ世ふ手と京よの在りし早替
ろる奏聞ありふ帝感成やすく国の守
ハ禄をたまひ早替る大蔵司となりぬひしが
き被んを呼て妻子の旅司と
ぞなひぬ蒲鏡のうとあり
ぬとれ比紀伊世の真
助と妻が悦ひかく
ふよれりと
信心篤く
且妻の
悪気ハ成ひ
あれまよ嫡の間ふ

一人の子のあれりしと
まの嫡諸共ふ来りし
色し子を授けあると一
ヒ日久しく祈りの手ふ大
怨の納め者ありけん家
程なく懐妊の身となれバ
嬉しよとぞ旅見の喜び
大方ならず
しつ産婦となりて妻ハ
と世を制そ不敵世間の劣損
まの産家へ入を近つけ乞し足を守
らぬハ必ず禍ひあるべしと云ふ産家へ入のびぞと
堅く禁ずるものゝ後程ふ延寿四年七月のうちの旅泊の□

□妻 密まき その神君 きゝ一人 産家へ入る事
やがて近付焔と渡し
ろうふ幸にあれ次 次へ

乳母をかゝ

暗夜とある家の狸の人を
程なく雲修雷する夜の明
独り赤子の

藤太

神童

若太

橘三

藤太女

御届明治二十年一月廿一日編輯兼出版人日本橋区[illegible]沢久次郎